

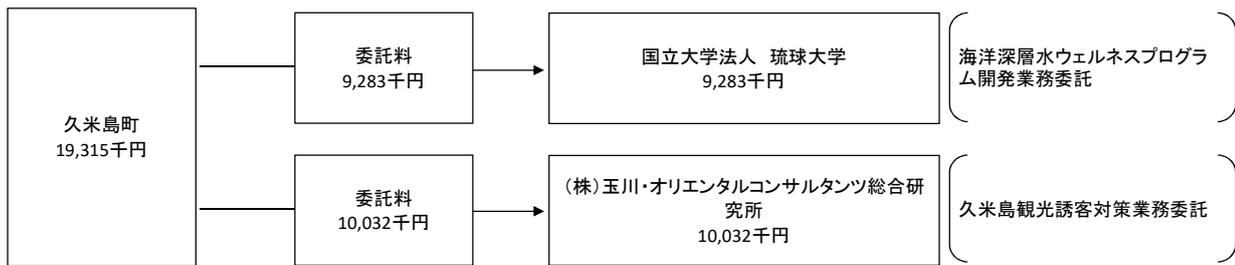
市町村名	久米島町
------	------

令和元年度沖繩離島活性化推進事業費補助金検証シート							
事業名	海洋深層水を活用した新体験プログラム形成事業		事業類型	<input checked="" type="checkbox"/> 産業振興	<input type="checkbox"/> 定住促進	<input type="checkbox"/> その他	
担当部署名	商工観光課		事業実施(予定)年度	平成30～令和元年度			
事業内容	観光誘客及び観光客の消費額増を図るため、海洋深層水を活用した体験プログラム等の商品開発及び体験プログラムを担う人材を育成する。						
先導性に係る取組	<input type="checkbox"/> 自立性 <input checked="" type="checkbox"/> 官民協働	<input checked="" type="checkbox"/> 政策間連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業推進主体の形成	<input type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成	<input type="checkbox"/> その他			
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(R3年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)		H30年度	R1年度				
	予算の状況	(a) 当初予算額	19,118	21,837			
		(b) 予算現額	19,118	21,837			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0			
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	19,118	21,837			
	B. 執行済額		17,388	19,315			
	うち補助金充当額		13,910	15,452			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率 (%) (B/A)		91.0%	88.5%			
予算の状況の説明		概ね当初計画通りの予算執行であった。不用額2,522千円については、事業執行に際し専門的な事業者を取入れたことで委託先の直接執行経費が圧縮され、委託費が減額となったことによる執行残である。					
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	海洋深層水を活用した新体験プログラム形成	目標	( 1件 )	( 1件 )	( )	( )	
		実績	3件	1件		-	
	新体験プログラムの担い手育成	目標	( 2名 )	( 2名 )	( )	( )	
実績		2名	2名		-		
海洋深層水を活用したウェルネスコミュニティ形成のための研修会・実績発表会	目標	( - )	( - )	( )	( )		
	実績	-	-		-		
達成状況説明	○プログラム形成事業においては、これまで造成したウェルネスツアーを販売するWebサイトを構築した。 ○担い手育成においては、ツアー商品のサービス提供を担う人材育成を行い、2名のコンシェルジュを育成した。 ○ウェルネスコミュニティの形成においては、次世代を担う地元高校生を対象に「観光」をテーマとした研修会や実践発表会を開催し、地域連携体制における人材育成を図った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(年度)	R2年度	R3年度	R4年度	目標値(R4年度)
	新体験プログラム(ツアー)への参加者数	目標	/	( )	( 600名 )	( )	( )
		実績			0名		
	実用化された新体験プログラムを目的とした入域観光客数	目標	/	( )	( )	( 1,200名増 )	( 1,200名増 )
		実績					
	実用化された新体験プログラムを目的とした入域観光客1人当たりの消費単価	目標	/	( )	( )	( 10,000円増 )	( 10,000円増 )
実績							
進捗状況説明	○コロナ禍によりプログラム実施が出来なかったため、成果目標を達成できなかった。 入域観光客数の推移: H30年度: 103,309名 R1年度: 100,716名 R2年度: 54,783名 R3年度: 54,706名						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○R1年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、積極的な誘客戦力が推進できない状況であった。 ○コロナの影響によりプログラム実施の中核施設が一時閉館となった。	○コロナ禍においても誘客ツールとして活用できる実施体制を構築し、感染予防対策を中心に検討し整えることが必要。 ○事業戦略を見直す必要がある。
今後の取り組み方針		
○コロナ禍においても展開できる体制を構築し、誘客に繋がる展開を図る。 ○事業戦略の見直しを行う。		

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費
19,315	19,315	15,452	3,863	0



資金の流し、費用・使途の流し、点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	事業目標達成に必要なノウハウやスキル、体制が整備されており事業実施先として最適な事業者を随意契約方式により選定した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	見積り精査のうえ、予算を編成した。また、不用額は事業費の1割程度であり適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	-
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	事業目的を達成するために必要な費目で予算化しており妥当である。また、予算要求時に財政担当の査定を受けており、検収時(完了検査)において確認を行い適正であった。